

	病名	潜伏期間	感染経路	主な症状と経過	休園（休校）の目安	留意事項	うつりやすい時期
登園許可証が必要な病気	麻疹（はしか）	8～12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	高熱、咳、鼻水、くしゃみ、目やにで始まり、いったん熱が下がる頃に口の中にコプリック斑が出現。再び熱が上がると同時に発疹が耳後部から広がる。	解熱した後3日を経過するまで	感染力が強い。肺炎、脳炎、中耳炎に注意する。	発熱出現1～2日前から発疹出現後の4日間
	風疹（三日ばしか）	16～18日	飛沫感染 接触感染	軽い発熱と同時に細かい発疹が全身に出る。首、後頭部、耳後リンパ腺が腫れる。3～4日で発疹が消失する。	発疹がなくなるまで	髄膜炎に注意する。妊婦初期は要注意。	発疹出現7日前から出現後7日間まで
	水痘（水ぼうそう）	14～16日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発熱（出ない場合もあり）周りに赤みのある丘疹が、3～4日で次々に水疱になり2～3日でかさぶたになる。かゆみが強い。	全ての発疹がかさぶたになるまで	感染力が極めて高い。免疫力の低下している児では重症化する。妊産婦は要注意。	発疹の出る1～2日前からかさぶたになるまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	16～18日	飛沫感染 接触感染	発熱（出ない場合もあり）耳の下、顎の下が腫れる。口をあげたり食べたりすると痛む。乳児では感染していても症状が現れないこともある。	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴を起こすことがある。	腫れる数日前から腫れがひくまで
	百日咳	7～10日	飛沫感染 接触感染	1～2週間にわたり、咳、鼻水、くしゃみ、続いて特有の咳（コンコン、ヒューヒュー）が続く。	特有の咳がなくなるまで 又は5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	肺炎、髄膜炎、中耳炎に注意する。特に乳児は重症になりやすい。	風邪症状の時から投薬治療開始後7日
	インフルエンザ	1～3日	飛沫感染 接触感染	突然の高熱が3～4日続く。全身症状（全身倦怠感、関節痛、筋肉痛）を伴う。のどの痛み、鼻水、咳。	発症した後5日間を経過し、かつ解熱した後2日（幼稚園児・保育園児は3日）を経過するまで	肺炎、気管支炎に注意。ウイルスの検出は発熱後約半日以上経過しないと正しく判定できないことが多い。	症状がある期間
	咽頭結膜炎（プール熱）	2～14日	飛沫感染 接触感染 経口感染	高熱、咽頭痛（扁桃腺炎）、目やに、目の充血（結膜炎）	主要症状消失後2日を経過するまで	夏季に流行が見られる	のどから2週間、糞便から数週間ウイルスは排泄される。
	流行性角結膜炎（はやり目）	2～14日	目やにによる接触感染 飛沫感染	目がゴロゴロして痛がゆい。目の充血、目やに、涙目、まぶたの腫れと痛み。	主要症状が消失するまで 医師が伝染の恐れがないと認めるまで	角膜炎による視力低下に注意。手洗いの励行、タオルを個別にする。	発症後2週間
	急性出血性結膜炎	1日前後	飛沫感染 接触感染 経口感染	急性結膜炎で結膜出血が特徴	医師が伝染の恐れがないと認めるまで	目やにや分泌物には触れない	のどから1～2週間、糞便からは数週間から数ヶ月ウイルスが排出される
	腸管出血性大腸菌感染症	O157は3～4日 その他の大腸菌は10時間～6日	経口感染 接触感染	激しい腹痛、下痢、血便、発熱は軽度	症状がおさまり、投薬治療が終了し、2回の検便検査によって菌陰性が確認されるまで	衛生的な食材の取り扱いと十分な加熱調理 オムツの取扱いに注意	便中に菌が排泄されている期間
登園許可証は必要でないが医師の診察が必要な病気	溶連菌感染症	2～5日 とびひでは7～10日	飛沫感染 接触感染	突然の高熱、のどの痛み、しばしば嘔吐。発疹、イチゴ舌。熱が下がるのと皮膚が膜状に剥けてくる。	抗菌薬内服後24～48時間を経過するまで	回復期に急性腎炎、リウマチ熱に注意	抗菌薬内服後24時間経過するまで
	手足口病	3～6日	飛沫感染 接触感染 経口感染	手、足、口腔内に水疱ができる。発熱は軽度。口内炎がひどく食事がとれないことがある。	発熱がなく、普段の食事がとれるまで	オムツの取り扱いに注意 爪が剥離する症状がみられることがある	唾液や鼻汁からは1～2週間、糞便からは数週間から数ヶ月ウイルスが排泄される
	伝染性紅斑（リンゴ病）	4～14日	飛沫感染	両頬に蝶のような形の紅斑。頬に発疹の現れる7～10日前に微熱・風邪様の症状が現れることが多い（感染力の強い時期）。発疹が現れた時はほとんど感染力なし。	全身状態がよくなるまで	発疹が治っても直射日光に当たったり入浴すると発疹が再発することがある 妊婦は要注意	風邪症状の時から発疹が出現するまで
	伝染性膿痂疹（とびひ）	2～10日	接触感染	虫刺され等を掻きこわして、細菌が付き、水疱、膿疱となる。かゆみが強い。膿疱が破れ、新しい皮膚に広がる。	皮膚が乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度になるまで	かきこわさないように爪を短く切っておく。くじくじゅしている部分はガーゼで覆い接触しないようにする。	効果的治療開始後24時間まで
	突発性発疹	約10日	飛沫感染 接触感染 経口感染	突然、高熱が3～4日続き、熱が下がると同時に全身に発疹が出る。発熱のわりに機嫌が良いことがあり	解熱後1日以上経過し、全身状態がよくなるまで		感染力は弱いが発熱中は感染力がある
	感染性胃腸炎	ロタは1～3日 ノロは12～48時間	経口感染 接触感染	嘔吐・下痢（乳幼児は白色調であることが多い）・発熱	症状が治まり、普段の食事がとれるまで	脱水症状に注意。手洗いの励行。嘔吐物や便の取り扱いに注意	症状のある間
	ヘルパンギーナ	3～6日	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱、喉の痛み、口の中に赤い発疹のどの痛みなどで食事、飲水ができないことがある。	発熱がなく、普段の食事がとれるまで	オムツの取り扱いに注意	唾液や鼻汁からは1～2週間、糞便からは数週間から数ヶ月ウイルスが排泄される
	RSウイルス感染症	4～6日	飛沫感染 接触感染	発熱、咳、鼻水などで発症し、多くは1週間程度で回復する。保育園児は1歳までにほとんどが初感染する。特に0歳児では入院が必要なほど重症化することがある。生涯に何度もかかることがある	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態がよくなるまで	2歳以上の園児や大人がかかるとRSウイルスと気づかずに感染を拡大させてしまうことがあるので要注意	3～8日（乳児では3～4週間）
	マイコプラズマ肺炎	2～3週間	飛沫感染	かぜ症状（高熱3～4日・咳など）。咳が頑固に続く。発熱しない時もある。発熱、中耳炎を伴うこともある。	症状が改善し、全身状態がよくなるまで	肺炎は学童期、青年期に多いが、乳幼児では典型的な経過をとらないことが多い。	症状発現から4～6週間
	伝染性軟疣腫（水いぼ）	2～7週	接触感染	1～5mm程度のつやのある小結節（しこり）が体中のいたる部位にでき、大きなものは中心が凹になっている。かゆみを伴うことがある。自然治癒することがある。生涯に何度もかかることもある。アトピー性皮膚炎や乳幼児は皮膚バリア機能が未熟であり広範囲に拡大しやすい。	保育所においては、周囲の子どもへの感染を考慮し、嘱託医と相談して対応する	プールの水では感染しないためプールに入っても構わない。ただタオルやビート板などを介して感染する場合もあり、衣類や節水性の絆創膏などで覆い、他児への感染を防ぐ。プール後の保温ケアも大切。	接触後に症状が出るまで2～7週間かかるといわれており、感染時期の特定は難しい。